

聖霊降臨節第5主日礼拝 6月20日(日)

題 『弟子たちを選ばれる』

テキスト：マルコによる福音書3章13～19節

親愛なる皆さん、おはようございます！

今日の聖書の個所には、イエスさまが12人の弟子たちを選ばれたことが記されています。一緒に学びましょう。

◆十二人を選ぶ

13:イエスが山に登って、これと思う人々を呼び寄せられると、彼らはそばに集まって来た。

イエスは、ガリラヤの湖を離れて山に登られました。その山はどの山かは不明のようです。

イエスの弟子になる基準などは特になかったようです。資格もありません。イエスさまが「これと思う人々」だったということです。弟子を選ぶに際しては、イエスさまは見ておられ、人々を見ぬいておられたのだと思います。かなりの弟子たちが、ガリラヤの漁師たちでした。魚を獲る漁師が、人間を獲る、イエスさまを知らせ、人々を神に近づける働きをするです。当時はまだ、今日のような、教会、制度的な教会をつくる計画はなかったのです。ただ愛なる神さまを信じ、イエスさまと共なる交わり歩みをなす人々の群れです。

イエスさまは、弟子となる人を選び、自分の方に呼び寄せられたのです。

人が選ぶ前に、主イエスの先行した招きがあるのです。わたしたちがキリスト者になったのも、

わたしたちの決断の前に、神さまとイエスさまの選びと招きがあったのです。

伝道者パウロは、自分を含めて神さまに選ばれた人々について、コリントの信徒への手紙I 1章26節～31節で次のように語りかけています。新約聖書300頁です。

「26:兄弟たち、あなたがたが召されたときのことを、思い起こしてみなさい。人間的に見て知恵のある者が多かったわけではなく、能力のある者や、家柄のよい者が多かったわけでもありません。

27:ところが、神は知恵ある者に恥をかかせるため、世の無学な者を選び、力ある者に恥をかかせるため、世の無力な者を選ばれました。

28:また、神は地位のある者を無力な者とするため、世の無に等しい者、身分の卑しい者や見下げられている者を選ばれたのです。

29:それは、だれ一人、神の前で誇ることはないようにするためです。

30:神によってあなたがたはキリスト・イエスに結ばれ、このキリストは、わたしたちにとって神の知恵となり、義と聖と贖いとなられたのです。

31:「誇る者は主を誇れ」と書いてあるとおりになるためです」と。

これは自分を誇ってはいけないとの教えでもあります。誇る者は主を誇れと。それも十字架の主を誇れと、パウロは言います。

そういうわたしも小さな者ですが、神さまに選ばれて、拾われて、牧師の働きをさせて頂いていると思っています。

それは、ここにお集まりの皆様にも当てはまる事なのです。

まずは、神さまのイエスさまの自由な愛から来る選びがあることを覚えましょう。

さて、続く聖書のことばには、

「14:そこで、十二人を任命し、使徒と名付けられた。彼らを自分のそばに置くため、また、派遣して宣教させ、

15:悪霊を追い出す権能を持たせるためであった。」とあります。イエスは山の上で、12人を選ばれ使徒として任命しました。山の上からは、ガリラヤ湖や、これから先、宣教に赴くガリラヤの平野が見えていたことでしょう。

12という数字は完全数で、旧約聖書にあるイスラエルの12部族と関係があると言われます。神さまの選ばれた共同体イスラエル、多くの苦難も受けましたし他国の奴隷にもなりました。彼らは繰り返し、神を忘れ、神に罪を犯し、神さから離れて行った歴史もあります。しかし、神さまは彼らをお見捨てにはならなかったのです。時至って、独り子イエスを彼らに遣わされたのです。神の救いの計画実現のためにです。それゆえイエスの選ばれた12人は、新しいイスラエルとも呼ばれます。神の国、神さまの愛と真実、正義によって生きる群れです。イエスさまは、「神の国は近づいた。」と生き生きと言葉と行いで語って行かれたのです。神の国の完成は未来ですが、イエスさまが地上に来てくださって、すでに神の国はこの地上に現れたのです。神の国はわたしたちの間に実現しているのです。わたしたちは、この神の国に対する、ワクワクとした感謝と期待と希望を大切にしましたものです。

「彼らを自分のそばに置くため、また、派遣して宣教させ」とあります。

「そばに置く」とは、教育と交わりのためです。弟子たちはイエスから神のことばを聞いて教えを受けるのです。

「使徒」とは、派遣される者と言う意味です。「派遣して宣教させ」、つまり弟子たちはイエスからこの世に派遣されるのです。キリスト者である私たちも派遣されているのです。「こんな小さなわたしが」と思いますが、こんな私たち

が、選ばれて派遣されているのです。「彼らを自分のそばに置くため、また、派遣して宣教させ、15:悪霊を追い出す権能を持たせるためであった。」

人を癒すことはイエスの働きの特徴でした。

弟子たち、わたしたちは、イエスの同伴者、道連れとしてそばに置かれるのです。そして福音宣教の働きに出かけるのです。日常の中で、神の国、イエスを伝え、真実を大切に、愛の働きをなしていくのです。「15:悪霊を追い出す権能を持たせるためであった。」神さまが信じる者たちと共に働いて善き力をもって働いてくださるのです。

宣教は神のことばを伝える働きです。また病人を助ける働きと共に、

自分を含めて間違った心や考え方を愛をもって親身になって戒める務めの働きも教会には、キリスト者にはあるのだと思うのです。

わたしは朝の黙想の時、アッシジのフランチェスコの「平和の祈り」を祈っています。「フランチェスコの平和の祈り」

主よ、わたしを平和の器とならせてください。

憎しみがあるところに愛を、
争いがあるところに赦しを、
分裂があるところに一致を、
疑いのあるところに信仰を、
誤りがあるところに真理を、
絶望があるところに希望を、
闇あるところに光を、
悲しみあるところに喜びを。

ああ、主よ、慰められるよりも慰める者としてください。

理解されるよりも理解する者に、

愛されるよりも愛する者に。

それは、わたしたちが、自ら与えることによって受け、

許すことによって赦され、

自分のからだをささげて死ぬことによって

とこしえの命を得ることができるからです。

そして、弟子12人の名前がリストが記されています。

弟子の名前を忘れることがありますので、ここを見れるように何か印をつけておかれることをお勧めします。イエスさまは、選ばれた者に親しみをこめてあだ名までつけておられます。

16:こうして十二人を任命された。シモンにはペトロという名を付けられた。「ペトロ」とは、岩男（いわおとこ）と言う意味です。

17:ゼベダイの子ヤコブとヤコブの兄弟ヨハネ、この二人にはボアネルゲス、すなわち、「雷の子ら」という名を付けられた。

18:アンデレ、フィリポ、バルトロマイ、マタイ、トマス、アルファイの子ヤコブ、タダイ、熱心党のシモン、

この「熱心党のシモン」とは、反ローマ的な政治的な活動家でした。いろいろな人が弟子として選ばれたのです。

19:それに、イスカリオテのユダ。このユダがイエスを裏切ったのである。

イエスを最後に裏切った、お金でユダヤ当局に売り渡した、ユダの名前もあります。

この人もイエスに愛され選ばれた人だったのです。12人ですが、様々な人たちがいたのです。

いよいよ、イエスと共に働く弟子たちが整い神の国宣教の働きがここから始まって行ったのです

そして、今ここに、集められたわたしたち一人ひとりも、あるがままで神の愛の働きのために選ばれて、輝く天の都に帰るその日まで、生かされて生きて行くことを覚えないのです。

皆さまの上に主の平安がありますように。

◆十二人を選ぶ

13:イエスが山に登って、これと思う人々を呼び寄せられると、彼らはそばに集まって来た。

14:そこで、十二人を任命し、使徒と名付けられた。彼らを自分のそばに置くため、また、派遣して宣教させ、

15:悪霊を追い出す権能を持たせるためであった。

16:こうして十二人を任命された。シモンにはペトロという名を付けられた。

17:ゼベダイの子ヤコブとヤコブの兄弟ヨハネ、この二人にはボアネルゲス、すなわち、「雷の子ら」という名を付けられた。

18:アンデレ、フィリポ、バルトロマイ、マタイ、トマス、アルファイの子ヤコブ、タダイ、熱心党のシモン、

19:それに、イスカリオテのユダ。このユダがイエスを裏切ったのである。